

第3回石川県成長戦略「ミライカイギ」 議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和7年5月20日（火）16時00分～18時00分
2. 場所：金沢彩の庭ホテル 1階
3. 出席委員（五十音順）：

数 馬 嘉一郎	数馬酒造株式会社代表取締役
加 納 慎 也	小松ウオール工業株式会社代表取締役社長
小 杉 佳世子	西日本電信電話株式会社北陸支店長
坂 野 洋 一	株式会社北國新聞社常務取締役 株式会社地域未来創造代表取締役社長
佐 田 啓 子	株式会社まつや代表取締役社長
新 滝 祥 子	株式会社ゆのくにの森取締役社長室長
新 保 雄 希	幼保連携型認定こども園泉の台幼稚園園長
高 田 恒 平	株式会社金沢彩の庭ホテル代表 株式会社金沢アドベンチャーズ代表
多 田 真由美	一般社団法人春蘭の里代表理事
出 島 彰 宏	珠洲市総合病院内科医長兼地域医療連携室長
任 田 和 真	いしかわ地域おこし協力隊ネットワーク共同代表
中 惣 恭 子	一般財団法人小原流南加賀支部長
奈 良 宗 久	茶道裏千家今日庵業躰
橋 本 陽 子	北陸電力株式会社石川支店営業部営業担当主査プランナー
森 高 靖 子	加賀建設株式会社土木部課長
安 井 善 成	有限会社安井ファーム代表取締役
山 口 宗 大	株式会社どんたく代表取締役社長

(議事次第)

1. 開会挨拶
馳石川県知事
2. 議事
 - (1) 座長の選出について
 - (2) 成長戦略の実現に向けた令和7年度新規事業について
 - (3) 石川県創造的復興プランのアップデートについて
3. 意見交換
4. 閉会

(説明資料)

- 資料1：成長戦略の実現に向けた令和7年度新規事業について
資料2：石川県創造的復興プランのアップデートについて
-

1. 開会挨拶

【馳知事】

お疲れ様でございます。第3回の石川県成長戦略ミライカイギを開催いたします。

ここいいですね。次やるときはゆのくにの森と、その次は春蘭の里でもやりましょう。場が変わることによって、発想の豊かさが生まれます。我々もあえてそういうふうに場を設定する方が、例えば春蘭の里に行けば、おそらく今現在の能登半島の状況を踏まえながらも前向きな意見も出ますし、新幹線開業で、ところが、まだ敦賀で止まったままですから、今後の戦略を考える上で、南加賀で開催することも大事なかなと思っています。そのときは新滝さん、よろしくお願いいたします。

改めて県の成長戦略は2年前に策定しましたが、昨年来の地震によってアップデートしていかなければいけない。

同時に、やはり「幸福度日本一の石川県」を目指すと私どもは申し上げておりますが、成長戦略はそもそもいろんなデータをもとにしながらも、それをどんどんアップデートしながら満足度、選択肢、そしてそれにチャレンジすることのできる石川県にしたいというのが私の目指している「幸福度日本一の石川県」。そう考えるとやっぱり人もそれぞれの価値観も大切にしながらも、私ども石川県の一つの魅力は、文化絢爛であります。昨年の国民文化祭も大変な大盛況でありましたが、こういった取組によって、たくさんの交流人口を生み出したり、関係人口を生み出すことにも繋がりましたし、何よりもお住まいをされている県民の皆さんに、「石川県でよかった」。生活していて、お仕事をされていて、子育てもしていて、お年を召したら人生の最期を迎えることになりますが、石川県においてよかったなと思ってもらえるような満足度をいかに増やしていくか。私ども県庁も行政ではありますが、きちんとサービスを提供できる行政マンでありたいと思っています。

皆さん方はそれぞれの分野でトップランナーでありますけども、県全体を見ながら、今これを打ち込んだ方がいいんじゃないかな、といったことをいろいろご指摘いただければありがたいと思います。今日は短い時間ではありますが、皆さんと一緒にいろんな意見を出し合って、それを取りまとめて、次の施策にどんどん展開していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

あと一つ、改めて昨日愛子内親王をお迎えして、昨日は七尾市と志賀町。愛子さまが昨日おっしゃっておられて、「両親から輪島、珠洲、能登町、穴水を訪問したことを聞いてきました。被災者にずっと寄り添っていきたい。ぜひ頑張ってください。」という励ましもいただきました。今、注目をいただいておりますが、常にアップデートしながら魅力のある石川県というところを、私は発信していきたいし、我々はその気になっていく必要があるなと、昨日愛子さまお見送りしながら、そういう決意をしたところでもあります。

今日は本当に短い時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議事

(1) 座長の選出について

【矢後企画振興部長】

座長の青木委員が退任されたことに伴いまして、新たな座長を選出いたします。

設置要綱第5条において、「座長は、知事が指名する者をもって充てる」こととされておりますので、会議を進めるにあたりまして、地元の代表紙である北國新聞社の常務取締役として、本県の事情に精通し、政治、経済など幅広い分野の見識を有する坂野委員にお願いし

たいと思います。それでは、以降の進行を坂野座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【坂野座長】

事情に精通していませんし、見識を有しているわけでもないですが、ご指名ですので、座長を務めさせていただきます。

私、本籍は北國新聞ですが、昨年の 11 月末に北國フィナンシャルホールディングスとともに立ち上げた地域未来創造という会社にも所属しています。地域コンサル会社とでも申しましょうか、震災復興の支援、地域のまちづくりのお手伝いをしたいと考えています。皆さんから、いろんなご意見やアイデアを聞くことを馳知事同様楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 成長戦略の実現に向けた令和 7 年度新規事業について

(3) 石川県創造的復興プランのアップデートについて

(事務局から、会議資料 1、2 に基づいて説明)

3. 意見交換

【坂野座長】

それでは意見交換に移ります。事務局から説明があった、成長戦略の実現に向けた令和 7 年度の新規事業および創造的復興プランのアップデートを踏まえて、今年度の事業をさらに良くしていくための、新たな視点からのアイデアなどについて、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。時間も限られておりますので、お一人 3 分以内でお願いしたいと思います。

それでは数馬委員から反時計回りでお願いします。

【数馬委員】

数馬酒造の数馬でございます。よろしくお願いいたします。

いくつかございまして、医療に関して奥能登の公立 4 病院の機能強化と新病院設立は大変ありがたいことだと思っています。希望としましては、特に子供や女性向けの医療サービス、それから予防医療を強化いただければなと思っています。

それから人の流れのところで、能登の話ばかりになってしまうんですけども、今、結構 20 代の若い方が入ってきているなということを、目にすることもありますし、聞いたりすることもあると実感しています。この 20 代を始めとした若い人たちが入ってきているという事実に関わらず名前をつけて現象化して、もっとこの流れを広められないかなということを考えています。

一方、まだまだ人口の流出、特に僕の印象では子育て世代の方が「子供のことを考えると」と言って、まだまだ流出しているなということで、一つはやはり資料にもありますけども、教育に特色を出して、教育を理由に離れる方がいるということは、教育を理由に入ってくる方もいらっしゃるという可能性も感じてますので、教育を理由に能登を選ぶ人を増やせればと思いますし、今入ってきてくださってる若い世代が子育て世代になるときにも、教育がしっかりすることによって、留まる可能性を、確率を高められればと思っています。

一方、スポーツの課題を感じていまして、元々の少子化プラス、今人口流出でなかなか単独では存続できないというチームが結構ありまして、合同チームという形を認めていただい

て参加しているんですけども、まず練習する場所に対しての送り迎えが難しかったりですか、あとは合同チームの要件をもう少し緩和していただければチームの在り方の選択肢が増えるため、長く継続できるなってところもあります。また、いろんな地域から集まって練習しやすいようなスポーツ施設、できれば送迎機能付きの、みたいなのがあるところがあって、参加したくても送り迎えができなくて参加できないみたいなこともありますので、そういった合同チームに対しての動きの補助やサポートがあればなと思っています。

それから生業のところ、事業のところで言うと、事業者を維持する機能と事業者を増やしていく機能の両方必要であると思っています。たくさんの補助金をいただく施策がありますので、そちらの継続プラス人材確保の支援に関しても、できればこの輪島塗の作り手だけではなくて他の業種に対しても、何か支援をいただければなと思っていますし、あとは高齢化が進んでいまして、結構高齢者の経営者の方もいらっしゃいますので、事業承継に関するサポートもあればと思います。それから、事業者を増やす意味でも引き続きチャレンジファンドのような補助金であったりとか、起業支援に対してのサポートもいただけたら幸いです。

そして、一番の問題が暮らしの部分です。公費解体で住む場所がどんどんなくなってきています。ですので、能登に暮らしたい。新たな人材を採用したいと言っても、住む場所がまず確保できないというところがありますので、そちらに対して例えば能登で暮らすために家を購入したいという方に対してのサポート、それから社員の住む家を確保する費用がある企業に対しての支援などをいただけたら幸いにございます。

【馳知事】

私も能登各地回りまして、思いのほか各地に能登に関わりたいという方が来られています。県内の大学生もあれば、全く関係ない20代、30代で、今だからこそ能登に応援に行きたい。あとは実は熊本とか、神戸とか、福島など、自分たちで被災をしたがゆえに恩返しに行きたいという。そういう意味で、関係人口が増えている方々に、こちらに来られたら、紹介できるボランティア先あるいは、タイミーと今連携していますが、自分の行ったときに自分の都合の良い時間帯で働ける飲食店でもいいですし、事業者のもとでも。タイミーさんともそういった方向性をいただいています。また東京の新橋にあるILAC東京事務所の人員を拡充して、もっと石川県内のあちこちを紹介できるような仕組みということもしました。

もう一つの観点から言うと、国が昨年法改正をして、二地域居住をすると、その登録をして、情報提供すると、基本的なサービスをやりましょうと。基本的に国交省が出した法律なんです。できれば私は総務省にも関わってほしいなと思っています。二地域居住、関係人口が増える。その方たちができる限り定着していく。また、定着しなくても滞在するときに、そういったときの滞在場所の提供、これ事業者にやっていただく。どんどん新しいビジネスを生み出すことが可能だと思っています。数馬さんは今お酒作ってらっしゃいますけれども、自分たちの事業を展開するために人手が必要であるならば、その方を確保するためのやっぱりマッチング事業が介在。またその方がお酒を作るのも忙しいときとそうじゃないときってありますよね。波がありますよね。農林水産業もそうですね、波があります。波があって自分たちが自分の時間を使えるときに、そういった他にどんどん労働力として使うという、このマッチング事業。こういったことは、デジタルなどを組み合わせたら、無限に可能性が出てきますので、それはまた働く可能性になってくる。こういったところをもちろん狙っている事業者もおられますが、相談も来ますが、こういった方々を県としても応援し、PRしていく、こういう姿勢は必要かなと思っています。

【加納委員】

小松ウオールに加納です。よろしくお願いいたします。

私からは、質問ですけれども2点ありまして、資料1の新規事業のところ、6ページにプレミアムパスポートの全ての子育て世代の拡大と書いてあるんですけども、「対象を第1子に拡大」というのはどういうことかなと。

【馳知事】

これは実は県庁内で議論があったんですが、私もその議論も踏まえた上で、プレミアムパスポートを谷本知事がスタートしたときは、多子世帯対象でした。第3子からでした。多子世帯の概念が、少子化になってきましたから2人目からでもいいんじゃないのとなって、そうしました。今、深刻な少子化を考えたら、1人の子供を産んでいただいたお父さんお母さんを社会全体で支えましょう。社会全体で子供が生まれたことをお祝いし、また企業の皆さん方にも一定のサービスの提供をお願いできませんかと。子育てに優しい企業という、いわゆるCSR方針を踏まえて、我々も、県もちろん応援しますが、第1子、1人目からみんなで産みやすい、育てやすいという、そういう可能性を追求していきたいということで判断しました。

【加納委員】

ありがとうございます。誤解していました。2人目、3人目を考えて、1人に拡大ってどういうことかなと思っていました。

【馳知事】

女性の方たくさんおられますが、1人産むということの大変さってということを、みんなでバックアップしましょうという趣旨です。

【加納委員】

素晴らしいと思います。

2点目ですが、先日創造的復興プランの冊子をいただきまして、私も読んだんですけど、それぞれの地域でヒアリングされている様子ですとか、10年であるとかそういう長期のスパンで検討されているというので大変素晴らしい内容だったと思ったんですけど、一方でお金のことがあんまり書いてないなと思ったんです。初期にいくらかかるのかとか、あと、維持費はどうなのかとか。一旦アップデートの方で約1,040億円増強されますっていうふうに記載もあるんですけども、もう少し内訳ですとか、県とか国とか市とかあると思うんで、そういったところの実現するために、どういった予算のことを考えてらっしゃるのかっていうのを今日お聞きしたいなと思います。

【馳知事】

今回のBCPの必要性ということが問われています。事業再構築の。県としての、県が行う事業というものをまさしく民間の皆さん方から見る事業というふうにとらえた発言かなと思いますが、改めて、これまで起債した部分をどういうふうに返済していくかという計画もある中で、新規事業それから既存事業、それぞれに毎年のように予算編成の段階で対応しております。予算で全て、3年後5年後10年後、いくら使えますというふうな方針を出せるのかどうかは、今既存の事業、新規事業を行っている効果を見ながら対応していかざるを得ないのではないか、という認識のもとに数値としては出していません。ただ、民間の事業

者の皆さんは、年間事業計画も事業再構築計画も含めて、数字まで出すという認識だと思いますので、これはちょっと持ち帰って、議論させていただきたいと思いますし、この件については、経済産業省出身の浅野副知事からも意見を申し上げさせていただきます。

【浅野副知事】

いや、もうおっしゃるとおりでございます。

【小杉委員】

N T T西日本の小杉です。まずミライカイギでのいろいろな意見を反映していただきまして、本当にどうもありがとうございます。

私からは横断施策でお話のあるデジタル活用に関してです。我々いろいろな自治体の職員の方々とお話をしていると本当に思うんですけれども、みなさん本当にお忙しい。やっぱり働き手がどんどんどんどん少なくなっていく中、一生懸命いろいろ対応していただいているんですが、本当にいろんな処理に追われていて、例えば復興の重要なコア業務みたいなところに本来であれば、もっともっと注力できる環境を作っていく必要があるんだろうなっていうのを本当に感じています。

一点まず、もちろん行政のデジタル化っていうことはいろいろな形で進めていかれていると思うんですけれども、一方で住民の皆さんも含めた行動変容と言いますか、社会全体で少ない働き手の中で、住民サービス・行政サービスを維持していく仕組みっていうのを考えていけないといけないんじゃないかなというふうに思います。なので、例えば何かデジタルの手続きをしたときには、ポイントとかクーポンがあたりますよといった、何かそういった仕掛けなどを行いながら、行政のデジタル化だけではなく、市民住民も含めてみんなで、少ない働き手の中でも上手く行政サービスが回るっていうようなことを考えていく必要があるんじゃないかなというふうに思います、というのがまず一点目でございます。

あと二つ目が、コアのところというのが、いかに政策であったり、行政サービスをみんなで話し合っていくか、考えていくかというところだと思うんですけれども、そういったところでもできる限りデジタルの力とかA Iの力というのを更に活用できるんじゃないかなと思います。例えば多様な意見であったり、どうしても埋もれてしまいがちな少数の意見なども含めて、今で言うとA I同士が議論をするといったようなところもありますので、そういった議論を出し合う、政策実現のアイデア出しといいますか、壁打ちみたいな形で使うこともできるんじゃないかなと思います。なので、働き手がどんどん少なくなっていく中で、みんなが何とか行政サービス、生活サービスを維持していく中で、社会全体でどういう形で回していくのかというのを、一方通行ではなくみんなで考えていければなというふうに思っておりますし、我々もそのI C Tを支えるものとしていろいろな形で、どんな形で貢献できるかというのを検討していきたいと思います。

【浅野副知事】

県のC D Oも務めている立場で言いますと、ご指摘とおり、もう奥能登の自治体の仕事がパンパンですっていう話と、そういったところにどうやって県庁のデジタル部隊が応援できるのか、こういったことも今年重要なテーマだと思っています。あとは、今年はデジタル化推進計画、これがまさに年限を迎える年でございますので、そういったところにもどうやっていくのか。まさにおっしゃっていただいたように、いろんなところでデータを取れる。あとは、住民の皆さんが例えば1人でも多くスマホを持ってるかどうか。あと手続きがそれで簡単にできるか。それを頻繁にやるのが今度は災害のいざというときの対策にもなります

し、そのあたりを振り返って、今度はD X、デジタル改革のフェーズにどう持っていけるかが、今年の県としても大きい課題だと思ってますので、しっかり馳知事のもと、実行に移していきたいと思います。

【馳知事】

県庁内のデジタル化。次、市町のデジタル化、教育も含めてですね。そして産業界のデジタル化。そしてその先にあるのがD Xなんです。効率的に情報を収集して、データで対応できるという部分と、それを踏まえて人間にしかできない判断とか、文化的な事業とか、コミュニティの維持、こういったところに展開していかないと意味がないと思っておりまし、または職員の安全管理とかもそうでしょうし、廃棄物の処理といったところもそうでしょう。デジタル化があって初めてです。

今回、防災のデジタル化に対応しなきゃいけないよということになりました。そうすると、まだ市町によってマイナンバーカードの普及率がちょっとまちまちですね。ここはやっぱり私達災害を受けたからこそ、フェーズフリーで普段から対応しなきゃいけないんです。

北國銀行さんもお協力いただいて、トチボを活用していただいておりますが、全県的に対応できるようにしていくと。福井県も結構進んでされていますので、見習って石川県もどんどん追いついていかないと、というふうに思っています。また産業界でも、それができる企業と技術者が足りなくて、お金もなくてなかなか対応できない中小零細企業の皆さんもいらっしますから。そういったときに、商工会・商工会議所などを通じて、十分な研修ができるように継続していくと。そう考えるとデジタルデバイド、いかに解消に取り組むかというのは大変重要で、これは能登の農業を今後大規模化もせざるを得なくなっていくときに、そういった環境整備も必要だと思っています。

改めてそういう全体像を踏まえて今、浅野さんにC D Oとして取り組んでいただいておりますので、またよろしくお願いしたいと思います。

【佐田委員】

まつやの佐田です。まずは、能登の皆様のご苦勞、そしてここに関わる皆様のご尽力に心から敬意を表します。

弊社は県内企業として、復興に向けて活動している現状をお話させていただきたいと思います。今の現状を、みなさんと温度差あるかなとは感じるんですが、意見ではなく現状をお話させていただきます。

先般、弊社で採用した社員がおりまして、珠洲市に住む義父母が被災により精神的に不安定となって、かほく市において介護を余儀なくされていましたが、復興が進み、物理的にも精神的にもようやく回復し、先日珠洲市に戻ることができたため、再就職ということで、再び働きたいと応募されてきました。地震から1年以上経ち、被災や介護など、様々な事情で働けなかった方が、次の一步を踏み出す場所を作ることも復興の一部だと感じております。弊社のあるかほく市は能登にも近く、通勤圏として雇用支援も可能です。今後も被災地とのマッチングや広域での雇用支援に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

また、弊社商品も震災後、石川県のソウルフードとして復興応援消費の中、全国で取り上げていただきました。この機会を一過性にしないために、新たな取組として、能登の牡蠣養殖業者とコラボ商品を発売するなど、自社のブランド力を活用して、能登と県内企業がつながることで、継続的に石川県の魅力を全国に発信し続けていきたいと考えております。

さらに、ゴールデンウィークには、県内各地で観光イベントが活況を呈し、奥能登でも交

通網の普及が進む中、行って応援したいという機運が生まれてきていると感じています。創造的復興とは元に戻すだけでなく、石川県全体の価値を高めることであると思います。私たちもその負担を担えるように、SNSや展示会など様々な場面で、石川の魅力を発信し、誘客に繋がるような動きを今後も強めていきたいと思います。民間の立場から引き続きできる限り取り組んでまいりたいと思います。

【馳知事】

まつやさんのとり野菜みそ、みなさんご存知だと思います。我々、唯一無二のお味噌として、サラダにもお味噌汁にも鍋にも焼肉にも。そしてキャップ付きも販売いただいて、本当に使いやすくなってきました。オンリーワンの強みということと大衆性ということは、ある意味では石川県の一つの強みですし、商品の生まれた元をたどっていくと北前船にたどり着くわけであります。風土に根ざした商品の開発と、更なる販路開拓と、できればこれが保存もできるわけで海外にも展開されれば私はもっといいと思いますし。そのことによって、かほく市における、工場かほくでしたよね、雇用が、特にかほくの場合には、油野市長さんが取り組んでいる少子化対策で大変人口も増えていきつつある、若い世代も多くあります。そういう意味で言えば、能登の皆さん方にとっての重要なポジショニングというものもありますので、地政学的に見ても、そうした雇用の確保、被災した方々への支援という意味では、大きな期待があると思っています。それは更なる今後の強みで活かしていければ。まつやさんに別に次の新たな事業やってくれって言ってるわけじゃなくて、いろんなバックアップをしていけるんじゃないかなと思いますのでよろしくお願いします。

【新滝委員】

ゆのくにの森の新滝と申します。よろしくお願いいたします。

戦略3の観光客データの収集分析による戦略的誘客の推進ということで、個々の観光客の属性や興味関心のデータ分析ということが、一つのキーワードになっていると感じまして、今回は私の所属するこまつ観光物産ネットワークの活動と小さな成功体験をご紹介しますいただければと思います。こまつ観光物産ネットワークは、物産販売と観光をテーマにした全国でも珍しいDMOです。新幹線の小松駅にあるお店の土産店（とさんてん）や小松空港の空の駅こまつを運営して、小松の情報発信をしているこまつ観光ナビというホームページを作っています。このこまつ観光ナビ、一昨年4月にホームページを全面リニューアルし、リニューアルの当時から、メンバーで2週間に1回集まり、内容について打ち合わせをしています。現在、過去12ヶ月でアクティブユーザーが33万、表示回数82万、イベント数243万。1年間ですが、この数字は大体この2年間で倍々になっています。ホームページを見られることはとても嬉しいですが、他にも目的がありました。それは分析です。

なかなか小松と観光、結びつきにくいですが、小松駅周辺と、加賀温泉郷に隣接する那谷寺さん、日本自動車博物館さん、ゆのくにの森周辺は、やはり客層もちょっと違って一緒にするのは少し難しいなということも感じていました。実際にアナリティクスの分析で、いろいろな地域や属性、好評だった記事の内容を知ることができました。

また、小松市観光交流課、小松商工会議所、DMO、このメンバーでデータ会議と称して石川県のデータアナリストの羽生田さんの話を伺いながら、観光に関するデータ分析を行っています。

このデータ分析によってできた「小松市にこんな方が訪れているのではないか」というペルソナ4名作ってみました。イラストはAIで作りました。この中で小松駅周辺に来られているビジネスマンの安部礼司（アベレージ）さん、42歳。この方に向けて何かアクションが

できないかということで、小松土産店の中にワンカップの地酒と地酒の小瓶を揃えました。おつまみはチーズや珍味です。短期間で128本売れたということになっています。もちろんSNS等で宣伝しました。行動をすればするだけ、少しのことで大きく変わるなど感じました。データ分析からペルソナを作り、アクションにつなげる、小さな成功体験ですが、ぜひこれをオール石川、能登の復興のためにも分析をして、アクションにつなげることができたらいいのではないかと思います。

【馳知事】

実はちょっと私の力技使ったんですが、金沢大学の観光学部の定数を増にいたしました。それはなぜかという、まさしく今新滝さんがおっしゃったことをやってもらえる人材を育成するためなんです。数年後には、大学院もやると聞いております。できたら地元の金沢大学で、観光をデジタルで分析をして、商品も開発をし、そしてPRもどんどん海外でも発信していくことができる人材が、各19の市町の観光協会や、当然県に配置されて、新滝さんがおっしゃったような分析のもとで、小さなロットでもいいから、良い商品を出していき、アップデートし続けるという、それはとても私大事だと思うんですよ。

小さな成功体験は必ず社員の皆さんも前向きにしていきますし、それがやっぱりこれだなということに繋がる情報発信の仕方も今後また考えられると思います。そこにAIの活用も必要だと私も思います。

改めて、そういったことに取り組める観光人材を金沢大学でも養成しておりますので、また、そういう人材が今度は大学出た後に、大学院を出た後に、地域で活用できるようにしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【浅野副知事】

今のデータの話もまさにデータアナリストの羽生田さんとか参画してやったやつだと思いますけど、3県で連携しようとか、要するに福井と富山と石川で、もっと広域に見ていくっていう話ですとか。今あるデータも本当にどこからいらっしゃっている方がどのぐらいいらっしゃっているのかってことも、ものすごく解像度が高いというふうに感じてます。

ですので、より一層それが次の商売というか予測に繋がって、予測して手を先に打つっていうところに繋がっていけるように、より一層考えていきたいと思っています。

【新保委員】

今日は大切な会議をウェブ参加という形で大変申し訳ありません。私保育・子育ての分野からこの会議に参加をさせていただいていますので、その視点から少しお伝えをさせていただければなというふうに思います。

まずは、能登の被災地の保育施設の状況なんですけれども、発災からかなり良い状況には復旧をしているところなんですけれども、今も各施設が復旧整備の方に進んでいまして、これは国・県が絡んでいろいろな手続きを進めている中で、昨今の状況ですので、予算面であつたりとか、業者さんの手配であつたりとか、保育の営みを止めずに工事を進めていく、子供たちに影響がないようにしていくってところで非常に苦心されている施設が多いので、馳知事は特に穴水の日吉先生の事例とかよくご存知だとは思いますが、そういった能登の被災地の先生方に対しては、県独自のいろいろなサポートをぜひいただきたいというのを、この場でお伝えをさせていただきたいと思いました。

あと、関係人口の活性化っていうところで、もちろん大人であつたりとか中高生、これは高校生とか大学生とかを含めて、復興教育もあわせていろいろな取組が今回のプランの中で

も示されているところで、非常に期待をしているところです。一方で、私が自分の認定こども園の中で触れ合っているような子供たちが能登に行く機会っていうのはなかなかまだ震災前の通りとはいかないので、子供たちが能登に興味を持つ、関心を持つ機会というのはどういうときだろうということなんですけれども、例えば僕も子供3人いますけれども、震災前はよく能登の温泉に泊まりに行ったりとか、それから海に遊びに行ったりとか、僕は金沢在住ですけれども、そういった機会にやっぱり能登の自然に触れ人に触れ食に触れ、故郷を愛するようになってきたっていう、自分も経験があるんで、そういうところがどんどん戻ってきてほしいなとも思いますし、新しい形を見つけていってほしいなというふうに思っています。

そうした意味でいくと、今回のプランもぜひ幼児期とか小学校の低学年っていうところも一つの対象枠として加えていただいて、そういった低年齢の子供たちが能登に関心を持つ機会っていうのはどういう機会が考えられるかなというふうに思っているんですけれども。一番は最近わかりやすく言うとキッザニアとか各種ディズニーもUSJでも万博でも、それから今度出てくる沖縄のジャングリアでもそうですけれども、低年齢の子供たちが関心を持つ仕掛けっていうのができていますので、能登に小さい子でも遊べる施設とか、あとはいろいろ天候のこともあるでしょうから屋内外で遊べるような、または海とか能登の文化を感じられるような施設とか。小学校の高学年から中高生になれば、結構文字とか知識でわかる部分も多いんですけれども、小さい子だとやっぱり感覚的なところが多いので、そういったところが刺激されるようなプランって何かできるんじゃないかなっていうのを、漠然としたお話で申し訳ないんですけれども、能登のエリアの中で考えられたらいいなというふうに思いました。

あわせて、僕もこの会議で何度も子供の声、子供の意見をぜひ反映してほしいというお話をしたんですけれども、やはり高校生の復興教育とかではぜひ既に言語化された子供たちの未来への期待を言葉にしていってほしいなと思うんですけれども、これも幼児期・低学年の子たちはなかなかそういったところに参加・参画できる機会っていうのは少ないと思うので、この後はぜひそういった低年齢の子たちの声にも耳を傾けていただきたい。これも具体的に言うと、保育所・こども園の先生方であったりとか保護者であったりとか、または最近そういうNPO、カタリバさんとかも含めてNPOとか民間のボランティア組織がそういった乳幼児期の子供たちの様子や言葉を聞く取組をたくさんされているので、そういった機会を通して、ぜひその年代の子たちにもアプローチを広げていただきたいなというふうに思っています。

最後に先ほども出ましたプレミアムパスポート。今回の質問にもあって第1子拡充というのは、実は僕もこの業界にいるので非常に画期的な話かなと。少子化対策としては2子・3子のサポートっていうのがまず考えられるところで、あらゆる施策制度の中では多子世帯に向けてっていうプランが多い中、今回第1子も含まれるというのは非常に幅の広がる話かなというのは思います。一方で、僕も今長男が今年度から大学に行くようになりまして、プレミアムパスポートは非常に歴史の長い制度になっていて、石川県の誇る制度だと思う一方で、目新しさとかインパクトについては、かなり長くなっているところがあるので、この辺りで石川県独自の子育て応援政策として、プラスワンでより目新しくインパクトのあるものっていうのを生み出していてもいいのかなっていうのは今回のプランを見させていただいて、率直に感じたところです。

私の方から以上子供関連でご提案をさせていただきました。ありがとうございます。

【馳知事】

新保さんありがとうございます。

まず保育士の養成等配置については、奨学金の負担軽減等も行っておりますので、引き続きこれは継続していきたいと思います。

また子育て支援は各市町が軸になっておりますので、ご承知のように、治療費・入院費の負担軽減を就学前まで行いまして、その分各市町が裏負担しなくて良くなったのでそれを子育て支援に回してくださいということで、様々なメニューが出てまいりました。ここは各市町にお任せするのも大事だと思います。とすると次のステップは、それを小学校3年生までか小学校6年生まで延ばせば、さらに各市町が使える子育て支援の施策が出てきます。ここは県が一律にやれというよりも、各市町にそれぞれのアイデアがある中でやっていただくのがいいのかなと。また、津幡の森の秘密基地もそうです、あの羽咋の LAKUNA はくいもかほくもそうですよね。雨と雪の多いわが石川県において、子供たちが大声出して安心して走り回って遊べる屋内の遊び場って絶対私は必要だと思っています。そういったことにも各市町で取り組むことができるようにしていきたいと思います。特に奥能登はそういった場所がなくて、今やもう仮設住宅が運動場などに立って、ご迷惑をおかけしていると思っています。そういったことにも復興の基金とか交付金を有効に使えないかというふうにも検討しておりますので、改めてまた今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

【高田委員】

金沢彩の庭ホテル、金沢アドベンチャーズの高田と申します。本日は誠にありがとうございます。

早速ですが、観光業に携わる私の視点で意見をさせていただきます。まずは市場の価格について改善が必要だと考えております。主に私達がホテルを営む金沢エリアが中心の話とはなりますが、石川県内は特に全国的に見ても宿泊費の変動が激しく、閑散期にはシティホテルであってもビジネスクラスのホテルと同料金で販売しているという現状がございます。施設によって価格が下がることなく、年間を通して一定の料金水準を維持していくためには、サービスの質の担保という観点が大切です。私達はこれまで地元企業の立場から、価格に見合った質を維持すべく、スタッフの賃金や待遇について改善し、サービスレベルを上げるための投資に努めてまいりましたが、1 民間企業だけでできることは限りがあると感じております。既に石川県の皆様に行っていたような高付加価値層のゲストに足を運んでいただける環境作りを進めると同時に、持続的に地域の価値を維持できるような施策があればぜひ協力させていただければと思っております。そして、あらゆるゲストを迎え入れる受け皿が整った暁には、戦略3にも記載があるように、観光客のデータ収集分析を行っていただくことで、石川県にとって、よりポジティブに働く戦略的誘致や観光への投資が高度なレベルで行えると考えております。

次に、自治体と企業並びに自治体同士でも情報の共有や連携をさらに密にしていくことで、観光に関するいくつかの問題が解決できるのではないかと考えております。インバウンドの誘致に関しても、ファムトリップの開催やインフルエンサーの招へい、ターゲットエリアの選定など、全てを各市町村と企業が連携して、共通の認識のもとで行い、石川県全体を回遊して魅力を知っていただくことができれば、一極集中型の観光を防ぐことができ、各エリアに経済効果を生み出すことが期待できます。さらにこれが実現できれば、昨今問題となっておりますオーバーツーリズム対策にもなるのではないかと考えております。

また能登の観光をどのように復活させていくかという点でも連携は欠かせません。今後の能登を石川県の観光地としてどのように位置づけるのか。またサステナブルツーリズムという観点からどうやって整備維持していくのか。これを実現するためには、単に能登を震災の影響から元に戻すのではなく、これまで以上にさらに魅力的で、繰り返し訪れたいくなるよう

な持続的な観光地としてアピールをしていく必要があると考えております。

そのための大きな柱としての方針を、私達企業と自治体の皆様が一体となって考えていくべきではないでしょうか。能登を筆頭に県内の各エリアの問題はそのエリアだけの問題ではないと考えております。地場産業の人間だからこそ、石川県全体を盛り上げていくべく、一丸となって考えていかななくてはならないと考えております。そのためにも、先ほどのビッグデータという考えはとても重要な要素になります。ぜひ民間企業にも共有いただき、一緒になってその内容を分析検討し、より大きな力として魅力ある石川の発展の一助になればと考えております。ありがとうございます。

【多田委員】

春蘭の里の多田と申します。よろしく願いいたします。私は今日も能登からやってきたんですけど、里山海道を通る機会が多いんですけれども、今日はほとんどが片側通行で、やっと工事が進んできて、良い道となることを願っています。

先日、私たち春蘭の里では、東京からの修学旅行生の受入れをしました。地震の影響で昨年は修学旅行の受入れをお休みさせていただいたんですけど、今月約 100 名の生徒さんを受け入れました。たくさんのメディア、たくさんの方に報道していただいて、少しは能登の希望になれたのではないかなと思っています。そのときに、石川県の農村ボランティアの活用もさせていただいて、今回の修学旅行生は田植への体験をしたんですけれども、とても喜んで体験をしてくれました。生徒さんもそうですけれども、私たち受け入れた側も生徒さんからたくさんの元気とパワーをもらって、少しずつ元の春蘭の里の形に戻れるように、というやる気が出てきたように感じています。その際に、私たち春蘭の里にあるゼロカーボンビレッジのところで水素のイベントもさせていただきました。修学旅行生さんは水素でちくわを焼いて食べるっていう体験をしていただいたんですけれども、なかなか珍しい体験だったので喜んでもらえました。先ほどもあったんですけれども、ぜひ水素ステーションを石川県の中に増やしていただけたらいいんじゃないかなと思っています。

今回ボランティアさんを活用させていただいたんですけれども、関係人口という点で、能登はこれからお祭りが盛んなシーズンになってきます。祭りというのは能登の人も元気になりますし、外の人々が能登に来て、能登のことを、能登の伝統文化を知るきっかけになると思います。能登のお祭りに来る方の施策もあったので、活用して色々な方に能登のお祭りのことを知ってもらえたらいいなと思います。

能登には能登空港があって、私たち春蘭の里で言うと、東京からのフライト時間が 45 分で能登空港からは車で 10 分ほどで、実質 1 時間ほどで来れるので、新幹線もそうなんですけど、能登空港ももっとたくさんアピールしていただけたらいいかなと思っています。

先ほどお話にもあったんですけれども、タイミーというものを私たちも活用させていただいたんですけど、正直能登でタイミーを使ってもあまりマッチングしないんじゃないかと思っていたんですけど、結構マッチングして、3 月からタイミーを通して私たちのところに就職、来てくれた方がいます。タイミーを使ってみて、地元にいる人とマッチングするのではなくて、例えば金沢の方だったりとか、富山の方だったり、遠方から来てくれる方が多いんだっていうのは驚きました。大体 2 日単位で来るんですけど、能登ということでドライブがてら来るとか、被災地に来たことがないので被災地の状況を見たいなという感じでタイミーを使って見に来る方が多いなということが驚きでした。私達が募集した枠は毎日すぐ埋まるような感じになったので、ぜひ能登の企業さんにはもっと活用していただけたらいいんじゃないかなと思います。ですが能登の人は高齢者が多く、どうしてもタイミー使うのが難しいような方もいると思うので、高齢者の企業さんだったりとかへのサポートがあればいいか

なと思いました。

もう一つ奥能登に新病院が建設されるとのことで、私情ですけど、私の祖母は元々輪島に住んでいて、地震がきっかけで住めなくなったので、金沢に避難して半年ほど生活していたんですけど、金沢に二次避難したということがきっかけで、寝たきり生活で歩くことができなくなってしまいました。介護はやってみないと分からないことが多くて、祖母の介護は母が一人でやっていたんですけど、どうしても無理なことが出てきたので、豪雨の前くらいに私の家に来て、私も一緒に介護をしていたんですけど、始めて介護に関わることで、高齢者の大変さ、介護の大変さを身に染みて分かったのですが、それと同時に在宅医療、病院に行けない人の医療がもっと充実してくれればいいなと思いました。医療に携わる人も少ないと思うので、どうしても病院に行けない人、脚の不自由な人、寝たきりの人が元気になれるようなりハビリだったりができるような医療のシステムができれば、能登の高齢者も元気になってくれるし、介護をしている側も助かるし、いいなと思いました。

【出島委員】

よろしく願いいたします。珠洲市総合病院の出島彰宏です。本日は石川県創造的復興プランにあります奥能登の医療提供体制についてお話をさせていただきます。

今年の2月に開催されました検討会において、能登空港周辺に断らない救急を目標とする新病院の建設。また既存の2市2町の病院をサテライトとして外来機能を残す方針を示していただきました。この決定は、このまま何もしなければ、10年後には維持困難でなくなっていた可能性があった奥能登の総合病院を残すことができ、住民の命と健康を守るための重要な一步になると受け止めております。地域医療に携わる医療者として、また奥能登の住民の1人として心より御礼を申し上げます。一方で、奥能登の住民の中には、近くにあった総合病院が新病院となって距離が遠くなることに不安を感じている方もいらっしゃいます。しかし、これまで七尾や金沢に搬送紹介されていた方の一部が、新病院で適切に対応できる体制が整うことで、奥能登住民の医療アクセスの向上のみならず、都市部医療機関の負担軽減にも寄与できる体制の構築が可能となると考えております。奥能登地域の住民が、今後も安心して住み続けることができる、そのような希望が持てる機能を持った病院となるべく、議論を進めていただきますよう何卒お願い申し上げます。新病院の整備には、専門医や総合診療医の確保が大きな課題となります。これを実現するためには、大学病院や石川県立中央病院、七尾の恵寿総合病院さまとの連携が重要になると思います。

また、先ほど多田委員からお話がありました介護であったり、在宅医療というところについては、やはり既存のサテライトがより住民の方に近い形で、様々なサービスを提供することで入院の医療機能とは別同時に、在宅による医療が必要な方たちも、医療が受けられる体制が維持されると思います。サテライトにまたどのような機能を残していくのか、各市町ではそれぞれ新病院からの距離であったり、様々な事情が違うと思いますので、ぜひまた各市町の声を拾っていただければと思います。

また、救急患者搬送においては、傷病者発生場所から新病院までの距離が遠くなることで救急隊の負担増加が懸念されます。救急隊への支援についてもあわせてご検討賜りますようお願い申し上げます。

創造的復興は能登全域ひいては、石川県全体の医療体制の安定化にも繋がると確信しておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

【中惣委員】

いけばな小原流の中惣と申します。本日は貴重なお時間を頂戴しまして、誠にありがとう

ございます。

伝統文化が抱えている課題の一つに、後継者不足という大きな問題があります。若い世代の方たちにも伝統文化を知っていただき、またその良さを伝えるために、それぞれの分野で試行錯誤されていらっしゃると思います。また、能登の復興に向けても様々な支援の輪が広がっています。誠に僭越ではございますが、華道に携わっている私の場合は、一華道家、そして小原流南加賀支部長の二本柱で活動させていただいております。

昨年2月に能登半島地震復興支援を目的とした「エールガーデンプロジェクト～エールの花を咲かせよう～」というプロジェクトを立ち上げ、これまで昨年4月と9月、そして今年4月にチャリティーイベントを開催し、わずかではありますが約50万円を義援金として寄付させていただきました。昨年2回のチャリティーイベントでは、いけばな体験コーナーや、いけばな教室生の作品展示に合わせて、飲食店や雑貨店、九谷焼作家の方々にお力添えをいただきチャリティーマーケットを開催いたしました。先月開催した3回目のチャリティーでは、いけばなとフラメンコの共演ライブとともに、今年2月に完成したチャリティーTシャツ「のとのしTシャツ」を販売いたしました。こちらは北部新聞社様に「のとのしTシャツ」のことを大きく記事にいただきました2月27日付の朝刊です。左胸の大きなロゴは、贈答用の「のし」を「のと」という文字に見立てています。着用することで、能登の皆様に贈り物をしましょう、というメッセージが込められています。また、この「のと」という文字は、一輪の花もイメージしています。後ろには、「FOR NOTO FROM YELL GARDEN」のメッセージも入れました。現在、白地に赤いロゴと、黒字に白いロゴの2色展開で、オンラインでも販売しており、販売開始から約3ヶ月で240枚以上お買い上げいただいています。売上のうち経費などを除いた全額を義援金としてお送りさせていただいています。

小原流南加賀支部の活動としては、今年12月13日に輪島の御陣乗太鼓の皆様をお招きして、伝統文化であるいけばなと、伝統芸能の交流をさせていただく予定です。小さなお子様を含めた幅広い年齢層の方々に、輪島の伝統芸能を見ていただきたいですし、私自身もわくわく楽しみにしています。

微力ではありますが、これから多くの方々に文化や芸能に触れていただく機会をたくさん作り、伝統文化の継承と、能登への支援活動の両輪で、精一杯活動していきたいと思っています。

私からは以上です。

【奈良委員】

茶道裏千家の奈良と申します。普段は茶道文化を指導させていただいており、石川県内で茶会等をさせていただいております。この度は馳知事並びに県庁の皆さま、いつも能登半島地震を含めましてご尽力いただき感謝申し上げます。

私からは文化圏のことを少し、戦略1新たな時代を捉えて飛躍・成長する産業づくりというところからお話させていただきます。ここの最後にあります加賀料理の無形文化財登録に向けた取組ということなのですが、新聞紙面上でもいろいろとお話等も伺っておりまして、そろそろ決定じゃないかというお話も聞いたりしておりますが、例えばお茶であってもお茶事というものがありまして、料理があって前後にお茶がある茶事というものがあったり、茶懷石というのも石川県にあります。そのときにこの記事を見ると例えば鯛の唐蒸しとか輪島塗という、輪島塗であつたら治部をいれる治部椀であつたり、唐蒸しを入れる九谷焼であつたり、もちろん料理が主ということでは今回あるのですが、それに紐づけて工芸であるとか、あと茶の湯であるとか、その前後にある能であるとか、そういうことがいずれ文化的なもの

がこうやって紐付いて登録というような形にしていただけるとなありがたいなと。先ほどいけばなのお話がありましたが、やはり文化人の人口減というのはとても顕著に全国的にもなっております。ということで支援していただくという意味でも心強く思う限りであります。

それと戦略3個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくりというところなのですが、これも最後に金沢城二の丸御殿「表向」主要部の第1期整備ということで、建築がそろそろということで紙面上でもお伺いしております。その中のところに能舞台があると聞いておるのですが、例えば全国の城跡を復元したところ、中にはそこを使って日常能であるとかお茶であるとか料理を例えば出すようなシステムになっているところもありますし、一切使えないというところもちろんです。その辺はいかなものかなというところと、三十三間長屋ができた当時、いろいろなところがイベントとして夜飲食をしたり、そこでお茶をしたりということを一時してましたので、最近あまり聞き覚えがないのですが、ちょっと使いづらい部分もありますし、金沢はやはり兼六園周辺には美術館が点在しているのですが、どうもそのアクセス的なことが歩くとちょっと距離がある。文化行事をしても、例えば玉泉院丸から21世紀美術館または時雨亭まで行くと坂があったり距離が微妙に、いい建物やたくさん美術館なんかあるのですが、歩くにはちょっと距離がある。例えばそういうところをシャトルバスであるとかそういうものを日常観光の中に向けて出すとか、二の丸御殿ができたときに飲食を伴う、金沢城周辺の中心的な迎賓館の様な要素を取り込んだ建物にしていだくとか、何かそういうことができないかなということを新聞を見ながら日々思っているところでもあります。

あとこの分厚い石川県成長戦略の55、56ページに当たるのですが、7番目の文化遺産の保存活用というところがありまして、やはりその石川県、金沢なんかは戦災にあっていない日本の各地でも恵まれた街であります。そういうところを例えばその上にあります芸術大学等との連携というものが、最近よく美大であるとか芸大というのがあるのですが、例えば文化団体、大きな文化団体とする石川県が提携して、連携していくというのもひとつかなという思いもあります。あとは例えば鎌倉神奈川には、鈴木大拙という偉人がいる。西田幾多郎という偉人がいる。円覚寺、東慶寺というお寺なんかありますが、石川県ゆかりの偉人がいるところというのがいくつかありますし、そういうところと連携していくとか、鎌倉の地元の新聞に旧前田家鎌倉別邸というものが鎌倉にあります。そこがもう維持できなくて数年後に解体されるという記事が出たということで知り合いの方が私のところにその記事をほんの少し前に送って来られたのですが、何かそういうことを石川県として維持保存するとか、連携していくというかたちができないかなという思いと、数年前にドイツのベルリンのアジア美術館という国立の美術館に石川県の工芸を使って茶室を建てまして、オープニングにも行ってまいったのですが、そのままのかたちになっているのですが、やはりそういう契機に、国内の地方との連携もちろんです。国立の美術館でもありますし、何かドイツのベルリンの美術館の茶室を通して文化提携ができないかなということも日々思っている次第です。

それと今日の戦略4石川の未来を切り拓く人づくりというところにやはり子どものこれからの教育というところで、私の家に息子が一人いるのですが、部活動がやはり中学から段々と縮小していくと。今まで当たり前にあった部活というのがなくなって、日本にもありますが、クラブというか何校か集まっての部活は生徒にとって他校の生徒もいる中、参加しやすいのか、しにくいのか、また敷居が高く感じて参加しないことによって全体の体力の低下に繋がっていくのではなどということも含めて子供達の将来を危惧しているところでもあります。

あとひとつ今回大学で茶道部というのが立ち上げになりまして私がちょっとそこに関連

して顧問みたいになっているのですが、なかなか支援がいただけないと。まず場所が無い、和室がない、近くの公民館を借りることになったのですが、学校自体には無いのでそこに歩いて行かなければならない。それに和菓子を食べますし、和菓子という文化を維持するためにもお茶には大事なのですが、そこに飲食に伴うためにまず支払いが必要なのか、学校からそういう話があったりということで学生も思い悩んでいるところがありますので、その辺の文化の向上というところでも何かできないかなと思っております。

あと資料2の石川県創造的復興プランのアップデートというところの輪島塗の次代を担う作り手の養成に向けた官・民・産地共同プロジェクトの実施というところですが、昨年、石川県文化振興基金助成金を3年前からありがたくいただきまして、石川県の百工比照という言葉を取って、百工茶会、要は文化の事業で石川県のいろいろなところを紹介する、工芸であるとか茶の湯というものを紹介する茶会を立ち上げておりまして、この前祈りの茶というのでカトリック金沢教会の方を含めまして能登地震の義援金のための茶会をさせていただいて、これをどこに義援金をお渡ししようかと思ったときに輪島塗というリンクを見ると普通のところと組合と青年会があります。青年会を見ていくととにかくリンクが全く見当たらないというところがある。京都なんかでも輪島塗というところに義援金を青年会議所関係でしたいということなのですが見るとなかなか明確に分からない。もちろん石川県の方に義援金をお渡ししてもよろしいのですが、輪島塗という特化したところに渡すとなると、渡す先が明確に見えてこないという意見をいくつか頂戴しております。そのようなことも含めて、文化の力でいずれ、先ほど馳知事の冒頭に文化絢爛というお話があったように、いずれ文化の担い手の我々含め皆さまで能登で何か少し落ち着いた頃に工芸とかアートとか、茶の湯、総持寺の禅というのもありますので、そのようなことも含めて何かそういう文化絢爛というものを能登半島でいずれできないかなということを今夢見ております。

【安井委員】

安井ファームの安井です。よろしくお願いいたします。

私は農業の方から少しご意見させていただきたいなと思ひまして、昨今本当にお米の価格が非常に上がってきて、皆さまにご迷惑をおかけしているというか、去年から大体3倍ぐらいに上がったのかなと思っていますが、この価格が適切とは私は思いませんけれど、今まで農業として、なかなか収支が黒字になってこなかった農家も結構いらっしゃる中で、ようやく価格転嫁できてきたかなと思ってます。このおかげで農業人口というのが15年で半減している状況です。これ全国もそうなんですけど、特に石川県では能登の地震によって、能登の農業者の方、また農地が隆起したりと。今復旧中ということで、農家の方もどんどん辞めてかれていとお聞きしております。農業者、特に石川県は米どころですので、米というのは非常に重要な産物だと思っています。その中で復興している1年間の中で、農業者の方たちが1年間何もせずにやっていけるのかどうかという部分が非常に多く出てきていると思います。現状どんどんどんどんやめてっている中で、復旧していった後に、果たして農業者が残っているのかっていうのが課題となるんじゃないかなと思います。大型農家や中堅どころも能登の方にいらっしゃいますし、頑張ってるとお聞きしていますが、いざ復旧できた、農地ができた、基盤整備できた、圃場整備できた、という中で、その方々だけでいっぺんに果たして抜けた穴が埋めきられるかということです。その辺をよく考えて、農業者にとって考えるべきなのかなと。

もう一つは、実は私も、去年から福島の方で農業参入をしています。皆さんご存知の通り、14年前に東日本大震災で津波があつて、本当に東電の原子炉の水素爆発があつて、今、その町の双葉町ということでやっているんですけど、14年経っても本当にほとんど復旧はし

たものの、復興はほとんどしてない状況。そこで農業参入しているわけですが、農地が農地でないと意味がない。能登もそうならいやだなということで、もしそのように復興できたとしても、やはり担い手がいないと意味がないので、例えば県外からプロの農業者を手当するなど、そういった面でまず農業者を、当然地元ファーストだと思いますけれど、まず農地を守る、石川の自然を守るっていうのも一つ大切なことなのかなと思います。

微力ながらですけど私も地震前に、志賀町のタバコ農家がほとんど駄目になって、タバコ農家の畑が空いたということで、野菜を作りに行ったんですけど、そこで困ったのが、まず能登から、お隣にどんたくさんおいでますけれども、販売先っていうのがなかなか難しい。まず金沢に持ってきて、そこから例えば東京・大阪に持って行くというのは非常に運送費がかかったりとか、ルートが大変、あとは雇用の問題だったりとかというのが大変です。今現状福島ではどうしてるかというところ、そこで作ったものは、災害でも原子炉の爆発で特殊なところなので、風評問題もあったので、現地に大きな加工工場を持ってきて、そこで農業者が作ったものを全て買い取るっていう仕組みになっているんです。そういった部分で能登の方にも、お米になるとまた別の話かもしれませんが、農産物はきちっと販売できる仕組みが必要になってくると思います。

【任田委員】

5月14日に開催されました石川県の関係人口官民連携協議会におきましても委員を務めさせていただいております。矢後部長を会長とする委員の中でもやらせていただいております。私としてもそういった側面もありますので、戦略3の個性と魅力にあふれる交流盛んな地域づくりというところで、移住定住もしくは関係人口といったところでご意見をさせていただければと思います。

まずはこの移住定住ということに関しまして、特にUターンというのがひとつキーワードになってくるかなと思います。特にもともと石川県出身の方が進学や就職を機に石川県を出まして、その後石川県にまだ帰ってきていないというような県の血というのは非常に大事なかなと思っております。特に地域づくりというジャンルにおきましてもUターンというそもそもの地盤を持っている方が地域に帰ってくることによって地域での活動にすごい幅がきくわけです。そもそも地域の方と顔が繋がっていたり、知り合い関係があるという中で地域づくりに関わるというのは非常に可能性が高いということでそういった意味でも非常にUターンの促進というのはひとつポイントになるのかなというふうに思います。そんな中で行政としてやはりやるべきこととしましては、行政としてライフイベントに対して支援をしっかりとすべきです。婚活であったり、住宅の購入、賃貸に対する支援というところを手厚く行っていく。それをワンストップでできて、それを支援するところをこれは既存でやっているかと思いますが、まず基本として大事なかなと思います。

その次ですけども、官民連携でやるべきこととしましては、やはり移住した後、もしくは関係人口として関わりを続けるためにどうするかというところでひとつポイントになってくるのがこのコミュニティだというふうに思っております。このコミュニティが武器になると常日頃から思っているのですけれども、個人的には月に1回移住者の交流会というものを能登と小松で開催しております。2018年から月に1回の移住者交流会を実施しております。能登では63回、小松で11回開催をしまして延べ1,100人以上が参加をしております。こういった移住者の交流会、単なる飲み会なのですけれども、開催していく中では人が人を呼ぶという現象を私は現場でよく見ております。宣伝はまったくしていないのですけれども、毎回新しい方が来られて勝手繋がって新しい活動がなされたり、そういった繋がりの中で生まれているということを目の当たりにしております。こういったところは聞いていく

と、そういう場所を求めている方が結構いらっしゃるというふうに実感しております。特に小松においては小松製作所や小松ウオールを含め、転勤や転職で小松に来られた方が、旦那は仕事の繋がりの中でコミュニティができていくのですが、奥さんが孤立してしまうというところがあり、奥さんがこのイジュートークに参加をして居場所として来ていただいて、本当にしたいことや趣味で広がっていく、そんな動きがありました。なのでこういった民間の方が取り組んでいること、そういったことを見える化していただいて、公の媒体を使って発信をしていく、そういうことによって知らなくて孤立している人に対しては、公の力を使って発信することで情報を届けることができるのではないかと考えております。これは移住に関わらず、農業においても、様々なジャンルでコミュニティというものを可視化してあげることによって、そういった方々が参加しやすいような雰囲気になるのかなというふうに思います。

もうひとつは地域コミュニティです。本当に過疎地域の特に公民館を中心とした社会教育の地域コミュニティにおいても人工減少であったり、コロナも含めどんどん縮小して維持できないというのが現状かと思えます。その反面、地域創生とか地域活性化、町おこしという分野は今個別大学でも新学部ができるほど人気のジャンルであります。なので、こういった地域の課題ですとかそういったものを学習の機会、もしくはビジネスのチャンスというふうに捉えて話をするというのは大事かと思えます。私今小松で商工会議所の担当と一緒にやっているのがこまつ地域未来創造塾という取組をしております。これは小松市内の小規模の実業家が地域課題をビジネスで解決するために学びながらビジネスプランを作っていくというものになっているのですが、他業種の方がそれぞれの知見をあわせて、課題に対して自分たちができることを考えてアクションをするという動きが非常に大事だというふうに感じているところなので、まさにミライカイギのコミュニティというのは私をすごい可能性につなげておりますし、ここの横の繋がりが何か新しいことができるチャンスになるかなと思っているのも、そういった意味ではこのコミュニティを1個軸にして、石川県そして官民連携で発信をし、支援をしていくことがひとつ大事なかなというふうに考えております。

【坂野座長】

私も同感です。今日から参加しましたが、皆さまの話を聞いていて、こういう横のつながりも含めて、非常に有意義な会だなと思えます。

【橋本委員】

北陸電力の橋本でございます。よろしく願いいたします。まずこのミライカイギにおける意見が反映された令和7年度の新規事業のご提案をいただきまして、心から感謝申し上げます。私からは、カーボンニュートラルと能登の災害廃棄物のさらなる活用に関してお話をさせていただければと思います。

令和7年度の新規事業のスライド7に記載されておりますカーボンニュートラルの推進で、民間企業主導の水素ステーション整備の促進がありますけれども、これについてですが、弊社は2023年4月より、輪島市と金沢市に設置されております能登スマート・ドライブ・プロジェクト協議会の水素ステーションの運営を行っております。現在の水素ステーションは設置スペースが比較的大きいものになっておりまして、今後コンパクトなものが開発されて既存のガソリンスタンドにも併設できるようになれば、燃料電池車の普及がさらに進むと考えております。燃料電池車は電気自動車と同様に、外部に給電する機能も備えておりますし、災害時の電源としても活用できますので、新たな時代も見据えて、今後とも整備を促進していただければと思います。

次に、能登の復興に資するご提案となれば幸いなんですけれども、先日開幕した大阪関西万博の電気事業連合会パビリオン前面スペースに弊社が研究開発したインターロッキングブロックというのが敷設されました。これは当社があくまでも地域の課題解決における地域貢献を目的に開発したものになるんですけれども、原材料としては太陽光発電の廃棄パネルや能登地域における地震や豪雨によって破損した能登瓦を混ぜて使用したのになっています。能登地域の復興を目的に各企業がこのような能登の再開発に由来した製品を開発していただいて、その企業を後押しするような施策を更に推進していただければと思います。

弊社はこれまでも被災者を応援する料金プランの創設や災害ボランティアなど、被災地の復旧・復興に向けた支援を続けてまいりました。地域に根差したインフラ事業者としても、新規事業や石川県創造的復興プランについても、お役に立てることは全力で取り組んで参ります。

【森高委員】

加賀建設の森高です。私は、建設業界の仕事をしていまして、成長戦略の事業と復興プランについて、3点要望があります。

成長戦略内6番の「安全・安心かつ持続可能な地域づくり」に関して、実際1月1日に発災した後、各社でBCPが発動されていましたが、土砂崩れなどの影響で、能登との通信手段が遮断されていました。実際1月2日から当社含む建設業界あげて安否確認等もそうですが、救援物資を運んだり、道路啓開作業を行っていた際の、逐一状況がわかる状況ではなく、通信手段ができる場所に戻っての、報告、確認という状態になっていました。今の時代でこれだけインターネットを頼った生活を送るということもあるので、災害に強いネットワークを県主導で整備していただきたいなと思います。

創造的復興プランについて、現在建設業界は震災で被害にあった場所の復旧・復興工事がたくさん出てきており、作業を行っています。一つの工事に多くの技術者や労働者が携わる工事現場において、この復旧復興工事に金沢以南の会社がたくさん従事しています。金沢以南からでは通勤時間がかかることから、住み込みによる工事を行っています。被災していることも重々承知ですが、工事関係者の住食ができる施設がとても不足していまして、復旧・復興を加速させるためにも県市町村が連携して、住食できる施設を拡充していただければと思います。

また、復旧・復興工事を行っている工事現場は壊れている道路や港となるため、人が住んでいるような住宅地から離れた場所であるのが現状です。その復旧・復興工事に携わっている多くの方は、皆さんと同じ同世代の20代から40代の人となりますが、住宅地から離れた不自由で不便な場所で長期的に滞在することになっています。そこでストレスを軽減できるような場所や地元と交流できるような場所あればと思います。そういうところがあると、心身のリフレッシュになり、仕事のモチベーションも繋がるかと思います。

【山口委員】

どんたくというスーパーマーケットを運営しております、山口でございます。前回初め2回目で参加させていただいてトップバッターで、今回はトリということで、山口という名前を恨んだこともないですけれども、我々、どんたくは能登を中心に展開させていただきながら、食品小売というようなところで少しお話をさせていただきますと、特に能登の方ですと震災もあってという中で、買い物難民の方がかなり多くいらっしゃるんじゃないかなという中で、弊社としましてはとくし丸という移動販売の車を各店舗から出しておるんですけれども、意外と出してみても思ったのが、能登よりも金沢の方が需要が多くて、金沢の市街地のと

ころにスーパーマーケットが郊外にどんどん出て行って買い物する場所がないということで、金沢でとくし丸の需要があるということがありながら、現在は能登の方にも出してるんですけども、1台だけだと、能登の方は家と家の距離がかなり離れているというところもあって、一日に回りきれぬ軒数がかなり少ないというところがあります。そうなりますと、ドライバーさんは個人事業主になりますので、なかなか収支が合わなくて、本当はそういうところに出したいんだけど出さきれないという部分があります。できればですけども、我々生鮮品を中心に扱っておるので、そういった鮮度の高いものを、より多くのお客様に届けたいという思いがありながら、それが今できないっていうジレンマを抱えてる中で言いますと、能登と言えども、市町村ごとに郵政、郵便局っていうのは必ず一つあったりするので、そういったところと上手く物流を共有しながら、色んなところに食を文化的なものとして提供できないかなというふうに思っておるところがひとつございます。

あとは、先ほどお米の話もありましたけれども、お米に関しては、能登だと能登産米非常に美味しくて人気も高いんですけども、お寿司屋さんなんかだと、地元のお寿司屋さんは能登米にこだわってお米を使っているんですけども、お寿司屋さんのお米って新米じゃなくて古米を使うようにしてるんです。1年前の米を使って、新米が出たときにはその前の年の米を使うようにしているんですけども、今年はお米がないということで、シャリにできる米がないからどうにかならんかっていうことをお話されていました。今年ももうおそらく田植えも終わっていますけれども、新米が出たとしても、高値かつ地元出回らないということも考えられますので、何とかこの地産地消っていうところで、食文化としての飲食店を保っていくためのお米を地元に残していただけないかなと。最近JAを通さずに県外から知らない業者のトラックで来て高値で買い付けてどこかに持って行ってしまって、我々のような地元の人たちが地元のお米を食べられずに、カリフォルニアだったりタイだったり、外国のお米を食べるという変なことに今後おそらくまたなってくるのかなと考えると、お米の部分はどういうふうに物が流れているかという、JAを通さない他の部分、全く我々小売りとしては見えない部分がありますので、そういった部分を保護していただけると、地元の小売だったり飲食店を守ることに繋がるのかなと思っております。

【坂野座長】

郵便局と物流を共有するという話でしたが、郵便局だけではなく、新聞の販売店も各地域にありますので、物流面で協力できればと思います。

【浅野副知事】

様々なご意見聞かせていただきました。まさに農業の話も、それから能登の米の話はとにかく生産性を上げるというために何をするか、コストも下げられるのかっていうのは、実は作り方一つとっても、最近直播（ちょくはん）で菌根菌（きんこんきん）と共生させて、畑作みたいに作ってるとういうのもこれまた出てきたり、今までと全く違うやり方っていうのも模索する余地が急に開けてきたところに、こういう高騰みたいな話出てきてますので。ただこれチャンスと捉えて、取組をどんどん進めていくことを県としても、試験場を中心に応援させていただきたいと思っております。また輸出をどうできるのかっていうことも一つの成長戦略だと思っています。

あとは観光の話は先ほどもありましたけれども、観光のこののみならずデータの話っていうのが色んなところで登場したと思います。本当にデータを読んでいく、AIに食わせる、それによって大まかな予想を立てる、手立てを先んじて打つ。その話をいろんな分野で多分できると思っていますので、そんなケースを県庁のみならずとにかく市町をどう助けるかというこ

とも、生活の隅々まで、意識してこれから取り組んでいければと改めて思った次第です。ありがとうございます。

【馳知事】

はい今日もありがとうございました。

この間お会いしたときにお伝えしたかもしれませんが、浅野さんと私のコンビは今から10年前にGIGAスクール構想を立ち上げるというか打ち上げて、文部科学省に響（ひんしゅく）を買いながらも、最終的にコロナがあったときに、これはせざるを得ないと。実は中国や韓国などからずいぶん遅れている形で、義務教育段階、高校のGIGAスクール構想スタートいたしました。

改めて今置かれてる現状を見ながら、今日の皆さんのご意見にあったように、こうしたらできるんじゃないか、既成概念というのは踏まえながらも、そこを乗り越える工夫をすることが私達に課せられた使命だと思っています。

もう1人の徳田さんって副知事もおられます。この人はミスター県庁のような非常にわかりやすい、きちんと組織の中で議論を積み上げて答えを出していくプロです。

私は国会議員として、法律を、議員立法を作る仕事をしながら、どういう定義・価値観を形にしていくのかっていうことをするのが大好きな人間です。改めて今日皆さんおっしゃったことは、私達石川県がブレイクスルーしていく上でのテーマをお示しいただいたというふうに認識をいたしました。

私のコメントが長くなりすぎて、坂野さんごめんなさいね。改めてこのミライカイギ、この後第二部が始まりますけれども、いろんな場面でお声がけいただき、そして、一つ一つの課題を必ず乗り越えていかなければいけないんだと、それが私達の使命だというふうな認識でやっていただきたいと思います。おそらく私達が作り上げたその概念っていうのは、10年後か20年後には、次の世代によってブレイクスルーされると思いますが、であるからこそ、今私達がしなければいけないのは、現状の課題を踏まえて、どうしたらそれを実現していくことができるのか。富山県や福井県でもやっているじゃないかという言い方もあれば、富山・福井でできないことをやろうじゃないかという価値観もあるということをご理解いただきたいと思います。

今日はありがとうございました。

4. 閉会

【矢後企画振興部長】

それではちょっと時間オーバーしましたけれども、以上をもちまして第3回石川県成長戦略ミライカイギを終了いたします。第4回の会議につきましては改めてご案内をさせていただければと思います。本日はお忙しい中ご出席を賜りまして誠にありがとうございました。